

# 市民の参加と協働を進める コーディネーション研究集会

〇〇〇 違いをチカラに、多様性を地域の当たり前  
〇〇〇〇  
～あつまれ！つながれ！課題に向き合うコーディネーター～

2024 **2.23** **金・祝** ▶ **2.24** **土**

参加費 一般 7,700円 JVCA正会員・準会員 6,600円

申込締切 2024 **1.31** **水**

越境×対話×共創

## 開催趣旨

1994年にスタートし、1996年から毎年開催してきた「全国ボランティアコーディネーター研究集会(JVCC)」。2021年から2回、オンラインでの「市民の参加と協働を進める多様なコーディネーション実践研究集会」の開催を経て、前回から「市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会(JVCC)」となりました。

主催の日本ボランティアコーディネーター協会は、2001年の設立時より、ボランティアコーディネーターの「ネットワークの確立」「専門性の向上」「社会的認知の促進」を掲げてきましたが、現在は、より広く社会に「ボランティアコーディネーションの機能を普及させる」ことにも力を入れています。「市民の参加意欲と行動力を引き出し、人や組織をつなぐコーディネーションの機能が発揮されることは、現代社会の様々な課題、領域、地域で重要だと考えているのです。

今回のテーマは、「違いをチカラに、多様性を地域の当たり前～あつまれ！つなぐ！課題に向き合うコーディネーター～」です。前は、ハイブリッド形式での実施ではありましたが、分科会はオンライン実施の割合が多くなっていました。今回は、オンラインのみの分科会もありますが、対面の分科会の割合を増やし、リアルに会うことを重視しています。

コーディネーション研究集会になってから大切にしてきた「越境×対話×共創」の理念をベースに、様々な分野で活躍する人たちが、それぞれの知識や経験を持ちよることにより、「参加と協働」をさらに進める機会としたいと考えています。

プログラムを企画し、準備を進めてきた全国の実行委員とともに、皆さまの参加を心からお待ちしております。

市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会 実行委員長  
鹿住 貴之(JUON(樹恩)NETWORK)

## 開催概要

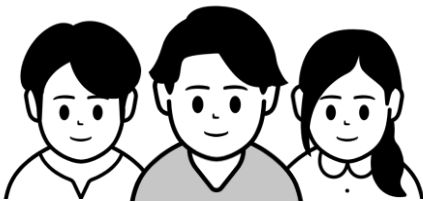
2024年2月23日(金・祝) 10:30~19:00

2月24日(土) 9:30~15:30

参加費 一般 7,700円 JVCA正会員・準会員 6,600円  
参加者交流会費(任意) 3,000円

方法 リアル会場(東京ボランティア・市民活動センター)&オンライン

## 参加対象



- 地域や組織で人や団体のコーディネーションに携わる方
- 市民の参加や協働の場をつくるコーディネーション実践に関わる方
- 異なる分野とつながり、社会課題の解決をめざしたい方

## 主催者

認定特定非営利活動法人 日本ボランティアコーディネーター協会  
市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会 実行委員会

## 会場について

### 東京ボランティア・市民活動センター

東京都新宿区神楽河岸1-1 飯田橋セントラルプラザ

#### アクセス

- ・JR飯田橋駅西口からすぐ
- ・地下鉄飯田橋駅「B2b」出口直結



## オンラインについて

- ・ **Zoom**を使用いたします。最新のバージョンにアップデートをお願いいたします。
- ・ パソコンでの視聴を推奨いたします。タブレット、スマートフォン等での参加も可能ですが、ブレイクアウトセッションの参加や資料の閲覧において不具合があることがありますので予めご了承ください。
- ・ マイク、カメラ、スピーカーが使用できるデバイスをご活用ください。
- ・ 一人1デバイスでご参加ください。



## お申込

下記Webページのフォームからお申込ください。※右記QRコードからもお申込可能です。  
JVCC2024専用Webページ <https://jvcc2024.jimdofree.com/>

郵送またはFAXでのお申込をご希望の方は、下記事務局までご相談ください。

- 分科会A、分科会Bはそれぞれから1つを選ぶ選択制です。各分科会は先着順です。それぞれ第1希望 / 第2希望 / 参加しないをお選びください。

**\*申込締切…2024年1月31日(水) 先着順**

※締切日前に定員に達した場合は、その時点で締切とさせていただきますので、お早めに！

#### 〈参加費のご送金〉

参加お申込受付後、ご登録のメールアドレスにメールにて入金手続きのご案内をお送りしますので、参加費等をお振込みください。

- 一般 7,700円、JVCA正会員・準会員 6,600円 参加者交流会費(任意)3,000円
- ・ 参加費等の入金をもって、正式なお申込といたします。
- ・ ご入金後は原則として返金できませんのでご了承ください。
- ・ 本研究集会当日までにJVCAに入会すると、会員参加費との差額1,100円を会場でキャッシュバックいたします！

#### ○参加申込に関する個人情報の取り扱いについて○

- ・ 参加申込でいただいた個人情報は、本研究集会の開催に必要な連絡調整(事前アンケートを含む)、今後の本研究集会と日本ボランティアコーディネーター協会の事業のご案内のために使用します。
- ・ 本研究集会の実施のため、担当企画委員や登壇者、運営スタッフには参加者の都道府県、所属団体、参加分科会等の基本情報を提供いたします。また、参加者の皆さまにも「参加者名簿(氏名・都道府県・所属団体)」を閲覧できるようにする予定です。

〈宿泊について〉 宿泊の手配は主催者および事務局では行いませんので、各自でお願いいたします。

〈当日のZoom ID 等のお知らせ〉 ご登録のメールアドレスにメールにてお知らせいたします。

〈問い合わせ〉 市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究会 実行委員会事務局  
E-mail: [jvcc2024@jvca2001.org](mailto:jvcc2024@jvca2001.org) Tel: 03-5225-1545 FAX: 03-5225-1563  
〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2丁目13番地 未よしビル別館30D



# プログラム案内

## 2.17(土)~2.24(土)

いつでもどこでも見られる！  
オンデマンド配信

オープニングセッション  
「共生社会」をめざすうえで自覚しておきたいこと  
マジョリティの側が陥りやすい「多様性」の落とし穴

## 2.23(金・祝)

10:30  
~12:30

会場と一緒に見られる！  
パブリックビューイング

オープニングセッション  
「共生社会」をめざすうえで自覚しておきたいこと  
マジョリティの側が陥りやすい「多様性」の落とし穴

分科会A

A1 会場&オンライン

いま、福祉施設・病院でどんなコーディネーションをめざす？  
語ろう、元気なコーディネーターになるコツ

A2 会場&オンライン

地域の交流拠点とまちの幸せな人たちとは  
住民主体の交流の場と地域の関係性を捉え直す

A3 会場のみ

地域は、文化の違う多様な人々とどのように共生していくのか？  
外国にルーツのある人にかかわる事例を検討する

13:30

A4 会場&オンライン

他分野との協働による地域づくりを考える  
「今日どう？」の関係を作りあげる秘訣☆

）

A5 会場&オンライン

えっ、その表現って、どうなの？  
言葉から考えるボランティアの価値 Season2

16:30

A6 オンラインのみ

違いや多様性は“混ざる”からこそ意味がある  
「つなぐ人」がいることで何がどのように変化するのか

A7 オンラインのみ

高齢化・人口減少コミュニティにおけるコーディネーション  
ウチとソトをつなぐチエとワザ

A8 オンラインのみ

ボランティアは「オワコン」か？  
研究の最前線から学ぶ、若者のボランティア参加

## 2.24(土)

B1 会場&オンライン

ボランティア、管理しすぎていませんか？—災害ボランティアセンターを事例に—  
管理を超える、コーディネーションを目指して

B2 会場&オンライン

地域づくりのパートナーに生協を選んでみませんか？  
生協との連携事例からつながり方を考える

分科会B

B3 会場&オンライン

「ホンモノの地域共生社会」を実現するために大学に求められるコーディネーションとは  
そのカギは「応答性」にあり！？

9:30

B4 会場のみ

改めて「コーディネーター」に向き合う哲学対話

）

B5 会場のみ

どうするボラセン！  
ボラセンの役割と機能を問い直して、モヤモヤ解消、明日からの実践に

12:30

B6 オンラインのみ

地域の多文化共生をのぞいてみよう  
外国人住民と共に考え・共に創る地域社会

B7 オンラインのみ

子どもの事例からセーフガーディングについて学ぶ  
利用者とボランティアを、組織として守る

B8 オンラインのみ

ボランタリーな取り組みを誘発する「学び合いの場」のプロデュース  
「学ぶ」と「動く」の好循環をつくるために

13:30  
~15:30

会場&オンライン

クロージングセッション  
明日からのコーディネーションのための振り返りと分かち合い



OP

オープニングセッション

「共生社会」をめざすうえで自覚しておきたいこと

マジョリティの側が陥りやすい「多様性」の落とし穴

市民の参加と協働を進めることを通して、社会課題の解決に取り組むことが、コーディネーターの大切な役割です。そもそも、コーディネーションには「対等、同格にする」という意味があり、私たちは人や組織を「対等につなぐ」ことを大切にしてきました。

しかし、日々のコーディネーション実践において、社会にある構造的な差別や偏見、人々のなかにある固定観念や社会規範にふれ、葛藤することはないでしょうか。その一つが、「マジョリティ(多数派)」側が持つ特権です。誰しも、その所属する社会集団によって、マジョリティ性を持っていたり、マイノリティ性を持っていたりしますが、マジョリティ側は労なくして得る優位性、つまり、特権を有することができます。しかしながら往々にして、その特権を持っていることには気づかず、無自覚でいるもの。マイノリティ側は差別や偏見の対象になりやすいのですが、マジョリティ側はそうはならず済むからです。

そこで、オープニングセッションでは、今回のテーマでもある「違いをチカラに、多様性を地域の当たり前にする」のために、まずは私たちがコーディネーションするうえでしっかりと自覚し、意識しなければならない「マジョリティの特権」について学び、コーディネーション現場で起きているさまざまな出来事や課題とクロスしながら深めていきます。

登壇者



**出口 真紀子さん** (上智大学外国語学部 教授)

アメリカ・ボストンカレッジ人文科学大学院心理学博士課程修了。専門は文化心理学。上智大学では「差別の心理学」「立場の心理学:マジョリティの特権を考える」などの科目を担当。監訳書に『真のダイバーシティをめざして—特権に無自覚なマジョリティのための社会的公正教育』(上智大学出版)、著書に『多様性を再考する—マジョリティに向けた多文化教育』(分担執筆「第4章 特権の概念」、「第6章 日本人の特権を可視化するための尺度の開発」、上智大学出版)などがある。



**新居 みどりさん** (NPO法人国際活動市民中心(CINGA) コーディネーター)

京都府出身。早稲田大学大学院文学研究科修了。青年海外協力隊帰国後、国際協力ではなく国内の在住外国人にかかわる仕事に従事したいと思い、仕事をしながら大学・大学院で多文化共生領域のコーディネーター論を学ぶ。東京外国語大学多言語多文化教育研究センター、国際移住機関(IOM)コンサルタントを経て、現職。社会課題に即した事業を、CINGAの専門性とメンバーの強みを生かした立ち上げることが主な業務。2016年より三鷹市民生協力員、2019年より民生・児童委員を務めて、地域における多文化共生についても日々実践模索中。



**長谷部 治さん** (神戸市社会福祉協議会 地域支援部担当課長)

岐阜県関市出身。大学時代に阪神・淡路大震災を契機にボランティアとして神戸へ来たことをきっかけに社会福祉協議会に入職。以降27年、福祉教育・ボランティア学習やボランティアセンターの担当。現在は神戸市社協に勤務しCSW、生活支援Co、こどもの居場所(子ども食堂、学習支援)、災害ボランティアセンターの4領域を主に担当。休日は家族でひたすら釣りに勤しむ日々で日本全国釣った県塗りつぶしに挑戦中。

コーディネーター



**妻鹿 ふみ子さん** (JVCA 代表理事 / 東海大学健康学部 教授)

JVCA代表理事。大学では地域福祉を教えつつ、神奈川県社協の「ロコ発掘調査隊」隊員として、コミュニティのしくみやシステムを変えることに果敢にチャレンジしていくことのできる地域とできない地域の差はどこにあるのかを考える日々。都市の郊外は「ヤバイ」。

視聴方法



- ①いつでもどこでも見られる！オンデマンド配信  
2.17(土)~2.24(土)の期間中にJVCC2024専用Webページよりご視聴ください。
- ②会場でみんなと一緒に見られる！パブリックビューイング  
2.23(金・祝)の10:30~会場で録画上映いたします。ぜひお越しください。

CL

クロージングセッション

2.24(土)13:30~15:30

明日からのコーディネーションのための振り返りと分かち合い

「違いをチカラに、多様性を地域の当たり前にする」を全体テーマとして掲げたJVCC2024最後のプログラム。全国各地からあつまった仲間と新たな学びや気づき、感じたことを話し、分かち合いましょう。また、今後のコーディネーションにつなげていくためにお互いの成果を確認し合います。

A1

## いま、福祉施設・病院でどんなコーディネーションをめざす？

語ろう、元気なコーディネーターになるコツ

コロナの5類移行後、徐々に再開している福祉施設・病院でのボランティア活動。しかし、その足並みは揃っていません。各施設独自の感染管理、職員の認識低下、ボランティアとの関係性の変化など再開を妨げる要因は多岐にわたり、これらの一筋縄ではいかない大きな課題を抱え、施設コーディネーター(担当者)は日々奮闘しています。

そこで、ベテランさんもコロナ前を知らない新人さんも、みんなを元気にする分科会を企画しました。外部の視点や助言も参考に、これからの福祉施設・病院ボランティアの意義と目的、コーディネーターの在り方を共に考え、明日からの力にしましょう。

対象 福祉施設・病院のボランティアコーディネーター / ボランティア担当者 定員 会場28名 オンライン何名でも

**講師** 小原 宗一さん (北区社会福祉協議会(東京都))

**登壇者** 加賀 孝幸さん (児童養護施設一宮学園)

岡澤 裕子さん (児童養護施設一宮学園)

谷澤 舞羽さん (済生会川口総合病院 ボランティアコーディネーター)

野澤 澄江さん (済生会川口総合病院 ボランティアコーディネーター)

● 担当 加藤悦典(神奈川県立こども医療センター) / 富澤真麻(埼玉県立小児医療センター)  
藤居昌行(小平市社会福祉協議会) / 藤掛素子(中央大学ボランティアセンター)

A2

## 地域の交流拠点とまちの幸せなかたちとは

住民主体の交流の場と地域の関係性を捉え直す

空き家や空き店舗などまちの空き空間を活用した交流拠点が市民の手によって生まれています。子どもや高齢者の居場所、多世代交流の場…拠点は利用者のためだけの場所だと思われがちですが、地域を支える機能をもつものも存在します。そして拠点の発展と継続には地域の理解と応援が欠かせません。地域と拠点がお互いを支え合っている関係性が「幸せなかたち」であり、まちに必要なではないでしょうか。

本分科会では「幸せなかたち」を事例から学び、その可能性を議論し、コーディネーターにどういった視点・動きが必要なのかを考えます。

対象 住民主体のまちづくりや地域づくりに携わるコーディネーター / テーマに関心のある方 定員 会場30名 オンライン15名

**事例発表者** 廣瀬 貴樹さん (一般社団法人かけはし 代表理事)

調整中 (まちナカ・コミュニティ 西荻みなみ)

**コメンテーター** 後藤 智香子さん (東京都市大学環境学部環境創生学科 准教授)

**進行** 山田 翔太さん (一般財団法人世田谷トラストまちづくり)

● 担当 齋藤尚久(日本社会教育士会) / 永松誠(千代田区社会福祉協議会) / 牧野大樹(横浜市港北区社会福祉協議会)  
宮崎雅也(日野市社会福祉協議会)

A3

## 地域は、文化の違う多様な人々とどのように共生していくのか？

外国にルーツのある人にかかわる事例を検討する

日本における外国人住民数は、2022年末に初めて300万人を超えました。これからは、外国籍・外国にルーツのある人々との共生がかかせませんが、その生活に目を向けると、特にコロナ禍以降、生活上の困難や課題が顕在化しています。そこで、地域の中で明らかになってきた課題を、国際交流協会と社会福祉協議会に持ち込まれた事例をもとに、ケース検討の手法を用いて検討します。ケース検討を体験し学ぶとともに、解決策、さらにはほかの組織や社会資源も含めた、今後の連携や情報共有の道筋を図り、多様な人を受け入れる地域づくりをめざします。

対象 外国にルーツのある人の相談を受けたことがある・受ける可能性のある方 / ケース検討の手法に関心のある方

定員 会場20名

**事例発表者** 永田 さつきさん (公益財団法人佐賀県国際交流協会 相談員)

伊藤 真理子さん (国立市社会福祉協議会国立市ボランティアセンター コーディネーター)

**進行** 唐木 理恵子さん (紬ワークス 代表)

● 担当 熊谷紀良(東京ボランティア・市民活動センター) / 藤井美香(横浜市国際交流協会)  
武藤佑子(千代田区社会福祉協議会) / 矢富明徳(佐賀県国際交流協会)

A4

## 他分野との協働による地域づくりを考える

「今日どう？」の関係を作りあげる秘訣☆

私たちが暮らす地域には、企業、協同組合、社協をはじめとする団体が、様々な分野で活動しています。課題に向き合う中で、「もっと活動を広げたい」「新たな取り組みをしたい」こうした考えや想いを持つ方は少なくないのではないでしょうか。ニーズが多様化する中、地域の社会資源を集めつなぐことで、自らの発想や能力を超えるアイデアとパフォーマンスを生み出すことが期待されています。他分野との協働のための仕掛けづくりとテクニック、日頃の問題意識の持ち方を実践事例から一緒に探求しましょう。

**対象** 企業、協同組合、社協など異なるセクターとのコーディネーションに関心がある方 / 普段のコーディネーションをレベルアップしたい方 / 地域や組織に新しい価値を生み出したい方 **定員** 会場30名 オンライン何名でも

**事例発表者** 川本 文人さん（公益社団法人日本フィランソロピー協会 シニアマネージャー  
一般社団法人Nポノ 代表理事）

永井 美佳さん（大阪府協同組合・非営利協同セクター連絡協議会(OCoNoMiおおさか)  
大阪ボランティア協会 常務理事・事務局長）

**コーディネーター** 園崎 秀治さん（office園崎 代表）

● 担当 青木覚（日本協同組合連携機構(JCA)） / 手嶋俊平（川崎市社会福祉協議会） / 平林秀敏（川崎市社会福祉協議会）  
宮崎雅也（日野市社会福祉協議会）

A5

## えっ、その表現って、どうなの？

言葉から考えるボランティアの価値 Season2

多種多様な分野で活動するボランティア。この「ボランティア」を言葉から考える分科会、第2弾です。あなたは、ボランティア活動に関して「奉仕」「慰問」（ボランティアの）「派遣」「活用」などの表現に、モヤモヤと違和感をもったことはありませんか？

この分科会の前半は、日ごろ、ボランティア・市民活動のコーディネーションに携わる方々から集めた違和感を覚える言葉について、ボランティアの価値を軸に対話を通して違和感の正体を探っていきます。後半は、その違和感を解消するためにできる私たちのアクションを考えていきます。

**対象** 「ボランティア」にまつわる様々な表現に対して、モヤモヤを感じているすべての方 **定員** 会場20名 オンライン20名

**経過報告者** 早瀬 昇さん（大阪ボランティア協会 理事長）

**進行・ファシリテーター** ボランティア報道アクションチームメンバー

● 担当 JVCAボランティア報道アクションチーム：石黒建一（社会福祉士事務所うらら） / 齋藤元気（立教大学ボランティアセンター）  
清水由子（岐阜市教育文化振興事業団） / 高橋義博（府中市市民活動センタープラッツ）  
竹脇恵美（ふるさと体験木曾おもちゃ美術館） / 橋詰勝代（高島市社会福祉協議会） / 疋田恵子（杉並区社会福祉協議会）

A6

## 違いや多様性は“混ざる”からこそ意味がある

「つなぐ人」がいることで何がどのように変化するのか

「みんなちがって、みんないい」そんなことはもう当たり前？ でも、現実にはまだまだ総論賛成、各論反対も。違ってもいいけれど、同じ場所にはいてほしくない、一緒に何かをやるのは望まないということも。それではせっかくの違いがあることの強みが発揮されません。多様性は交わるからこそ丁寧なコミュニケーションが必要になり、豊かな関係が生まれていく。ただそのつながりは自然発生的に生まれるとは限らないのです。そこで、出会いを促し、関わりを支えるコーディネーターの存在意義に着目して、周囲に変化をもたらすコーディネーションについて考えます。

**対象** 地域や組織で活動するコーディネーター / コーディネーターの存在に関心がある方 / 人や組織をコーディネーションする場面がある方 **定員** オンライン24名

**事例・発題者** 新居 みどりさん（NPO法人国際活動市民中心(CINGA) コーディネーター）

粟屋 浩さん（岩国市社会福祉協議会地域福祉課 課長補佐）

遠山 昌子さん（生き方のデザイン研究所 代表理事）

**コーディネーター** 筒井 のり子さん（龍谷大学社会学部 教授）

● 担当 後藤麻理子（日本ボランティアコーディネーター協会） / 文珠正也（ワーカーズコープ・センター事業団関西事業本部）



A7

## 高齢化・人口減少コミュニティにおけるコーディネーション

ウチとソトをつなぐチエとワザ

農山漁村をはじめとする、高齢化や人口減少が進む地域では、コミュニティ内外のヒト・モノ・コト・カネ等の各種資源を、課題解決に結びつけるコーディネーションへの期待が高まっています。一方で、コーディネーションの際には、コミュニティの主体性や活動の継続性をいかに担保するかも問われます。

この分科会では、農村部の住民自治組織による「地域のなんでもや」の実践や、外国人技能実習生と地域課題を結び取り組み等、先進的な事例にも学びつつ、高齢化・人口減少コミュニティにおけるコーディネーションのあり方について考えます。

対象 地域住民 / 社会福祉協議会 / 地域支援NPO / 地域づくり関係者 / 自治体 / その他テーマに関心のある方

定員 オンライン40名

事例発表者 吉澤 武志さん（宮城県丸森町筆甫地区振興連絡協議会 事務局長）

石丸 利太さん（佐賀県伊万里市黒川コミュニティセンター 地域づくりサポーター）

進行 菅野 道生さん（淑徳大学総合福祉学部 准教授）

- 担当 開澤裕美(中央大学ボランティアセンター) / 鹿住貴之(JUON(樹恩)NETWORK) 杉浦健(共働プラットフォーム) / 矢富明德(佐賀県国際交流協会)

A8

## ボランティアは「オワコン」か？

研究の最前線から学ぶ、若者のボランティア参加

昨今、インターン等社会参加メニューの多様化、困窮によるアルバイト時間の増加や資格取得による多忙化等、学生をはじめとした若者を取り巻く環境は変化しました。それ故、若者はスキマ時間を使ってできる単発の「体験型」ボランティアを好むようになったと感じられます。かつて主流だった「フルコミット型」ボランティアは、「オワコン」(=興味を引かない終わったコンテンツ)になったのでしょうか？そうであれば、私達は「オワコン」化に抗うべき、あるいは受け入れるべきなのでしょうか？近年のボランティア論研究をもとに考えます。

対象 若者のボランティア参加に関心のある方 / 「研究」と「現場」の架橋に関心のある方

定員 オンライン40名

講師・コメンテーター 仁平 典宏さん（東京大学大学院教育学研究科 教授）

実践研究報告者 直井 友樹さん（横浜国立大学大学院 博士課程後期）

- 担当 榎本朝美(東京ボランティア・市民活動センター) / 鹿住貴之(JUON(樹恩)NETWORK) / 菅野道生(淑徳大学)

### 参加者交流会

2.23(金・祝) 17:30~19:00

会場のみ開催  
参加任意

久しぶりのリアル会場での開催！軽食をつまみながら、夜は楽しい交流タイムを過ごしましょう！皆さまの参加をお待ちしております。

- ・ 会場のみでの開催です。オンラインでの交流会は実施いたしません。
- ・ 参加は任意です。
- ・ 別途、会費3,000円がかかります。お申込時に参加費と併せてご入金ください。

詳細は追ってWebページ等でお知らせいたします。



### 交流コーナー

JVCC2024期間中に会場内に開設！ボランティアコーディネーションに関する図書販売、JVCAの活動紹介などが行われます。出会いと発見がいっぱいです。



B1

## ボランティア、管理しすぎていませんか？ —災害ボランティアセンターを事例に—

管理を超える、コーディネーションを目指して

組織のリスクマネジメント意識が高まる中でボランティアを管理する傾向が強くなりすぎていると感じることはありませんか？災害現場のボランティアコーディネーションは、ボランティアの安全や効率的で平等な支援活動を考え、その傾向が強くなる可能性があります。

今回、災害ボランティアセンターの運営を事例に、その傾向の背景を探りつつ、ボランティアの主体性や特長を活かしながら、ボランティアもボランティア活動の対象となる人、コトもハッピーになる、管理を超えたコーディネーションの可能性とヒントを考えます。

対象 社会福祉協議会職員 / 中間支援組織・NPO職員 /  
災害支援・防災に関心のあるすべての方

定員 会場30名 オンライン15名

発題者 頼政 良太さん（関西学院大学人間福祉学部社会起業学科 助教  
被災地NGO協働センター 代表）

事例共有者 平林 秀敏さん（川崎市社会福祉協議会 企画調整室長）  
関根 正孝さん（一般社団法人ピースポート災害支援センター 防災減災教育担当）

● 担当 勝井裕美(シャプラニール=市民による海外協力の会) / 藤居昌行(小平市社会福祉協議会)

B2

## 地域づくりのパートナーに生協を選んでみませんか？

生協との連携事例からつながり方を考える

生活協同組合(生協)は、多様な個人・組織とつながりを持ち、そこから生まれる力を活かして地域の様々な課題の解決に取り組んでいます。一方で、生協がどのような活動を行っているのかわからない、つながり方がわからないという声をよく聞きます。この分科会では、生協と地域の団体との連携事例を紹介し、生協とのつながり方を考えます。「協同の力」を大切に生協は、違いをチカラにすることが可能です。地域づくりのパートナーを見つけるために、生協をはじめとする様々な団体とのつながり方を一緒に考えましょう。

対象 生協との連携に興味がある方 / 地域での実践事例に関心がある方 /  
社協や中間支援組織・NPO職員 / 行政職員 / 生協職員

定員 会場・オンライン30名

基調報告者 犬丸 智則さん（厚生労働省社会・援護局地域福祉課地域共生社会推進室 支援推進官）

事例発表者 佐渡 光さん（黒部市社会福祉協議会 地域福祉課主任）  
赤井 郁夫さん（一般社団法人officeひとりの葡萄 代表理事）  
前田 裕保さん（生活協同組合コープこうべ 第1地区本部長）

ファシリテーター 文珠 正也さん（ワーカーズコープ・センター事業団 関西事業本部）

● 担当 青木覚(日本協同組合連携機構(JCA)) / 鹿住貴之(JUON(樹恩)NETWORK) / 蔦直宏(日本生活協同組合連合会)  
中谷隆秀(長野県生活協同組合連合会)

B3

## 「ホンモノの地域共生社会」を実現するために 大学に求められるコーディネーションとは

そのカギは「応答性」にあり！？

現在、国は「地域共生社会の実現」をキーワードに、一人ひとりが主体となって支え合う地域社会づくりを推進しています。また、多くの大学では社会参画を通じた「学生の学びと成長」「大学の地域貢献・地域連携」等を目的としてボランティア活動等を推進する部署が設置されていますが、最近では地域への協力という段階を超えて、主体的に地域社会づくりを担うことを打ち出す傾向も見られます。

この分科会では「ホンモノの地域共生社会」の実現にむけて大学におけるコーディネーションはどうあるべきか、講義と事例報告、ディスカッションを通じて考えます。

対象 大学においてボランティア活動や地域連携の推進を担当している教職員 /  
学生を地域で受け入れている(受け入れたい)団体の関係者 /  
学生の活動を地域でコーディネートしている中間支援組織のスタッフ

定員 会場30名 オンライン15名

講師 室田 信一さん（東京都立大学人文社会学部人間社会学科 准教授）

事例発表者 北川 さらささん（多摩区ソーシャルデザインセンター 正会員）  
石川 陸矢さん（東京都立大学大学院理学研究科物理学専攻 博士後期課程1年）  
足立 陽子さん（淑徳大学地域共生センター コーディネーター）

● 担当 粟澤稚富美(社会教育協会ひの社会教育センター) / 菅野道生(淑徳大学)

B4

## 改めて「コーディネーター」に向き合う哲学対話

もし「コーディネーター」という言葉が通じない人に、自分たちの仕事を伝えなければならないなら、私たちはどのような説明をすべきでしょうか。

そもそも「ボランティアな活動をコーディネートする必要性」は何でしょうか。ボランティアな活動が社会の役に立つ行為であるとするなら、それらをコーディネートする私たちはどのような役に立てているのでしょうか？

こうした「問い」に向き合い、共同で対話を深める方法の一つに哲学対話があります。このテーブルではコーディネーターとして日々活動する中で抱きながらも、見落とされがちな問いについて、哲学対話の手法を用いて考えていきます。

対象 越境に難しさを感じている方 / ボランティアな活動についてじっくり考えてみたい方 /  
ほかの方の考えを聴いてみたい方 / もやもやを感じている方 / 哲学対話を体験してみたい方

定員 会場30名

ファシリテーター・プロデューサー 西村 歩さん (MIMIGURI リサーチャー)  
ファシリテーター 調整中

● 担当 開澤裕美(中央大学ボランティアセンター) / 藤掛素子(中央大学ボランティアセンター)

会場のみ

B5

## どうするボラセン！

ボラセンの役割と機能を問い直して、モヤモヤ解消、明日からの実践に

新型コロナウイルスの影響で多くの人々が困窮状態に陥り、全国の社協で生活福祉資金特例貸付にかかわる相談・支援に対応してきました。その中で、貸付だけでは解決困難なケースがあったものの、手続きに追われ、地域の資源を活かした支援につなげることができなかったことが報告されています。

ボランティア・市民活動センター(略称:ボラセン)は、コロナ禍の予期せぬ甚大なニーズが発生している中で、どのように取り組んできたのでしょうか。どんな取り組みができたのか、どうしてその取り組みができたのか、事例の背景、要因を聞き、参加者の皆さんとボラセンやボランティアコーディネーターの役割、機能を確認していきます。

対象 ボランティア・市民活動センター職員 / 社会福祉協議会職員 /  
ボランティア・市民活動センターにかかわっている人・団体

定員 会場30名

講師・コメンテーター 諏訪 徹さん (日本大学文理学部社会福祉学科 教授)

事例発表者 田中 亮彦さん (立川市社会福祉協議会立川市くらし・しごとサポートセンター 係長)

宮崎 雅也さん (日野市社会福祉協議会日野市ボランティア・センター 課長補佐)

市川 齊さん (シャンティ国際ボランティア会 地球市民事業課シニアスタッフ)

● 担当 池畑雄太(渋谷区社会福祉協議会) / 梅澤稔(いたばし総合ボランティアセンター)

会場のみ

B6

## 地域の多文化共生をのぞいてみよう

外国人住民と共に考え・共に創る地域社会

地域社会で外国人住民が身近な存在となり、「多文化共生」という言葉をよく耳にするようになりました。みなさんは、多文化共生社会とはどのような社会だとイメージするでしょうか。一緒に地域の多文化共生の事例をのぞいてみませんか。この分科会では、さまざまな分野で活躍する外国人やその関係者から話を聞き、外国人と共に創る地域社会のこれからを一緒に考えたいと思います。違いをチカラに、日本人と外国人が共に暮らす地域社会について、コーディネーションのヒントを見つけましょう。

対象 日本に暮らす外国人の声を聞きたい方 /  
地域で外国人住民とのつながりを築こうとしている方 / テーマに関心がある方

定員 オンライン20名

事例発表者 カンチャ ラマさん (株式会社いちご一会)

メハタ カル シンさん (豊島区在留外国人支援事業「としまる」コーディネーター)

エムディ エス イスラムさん(NPO法人日本ムスリム商工振興会 理事)

吉成 勝男さん (NPO法人ASIAN COMMUNITY TAKASHIMADAIRA  
(高島平ACT) 理事)

コーディネーター 早瀬 昇さん (大阪ボランティア協会 理事長)

● 担当 江坂静子(東京都つながり創生財団) / 菊池哲佳(多文化社会専門職機構) / 藤井美香(横浜市国際交流協会)  
村松清玄(シャンティ国際ボランティア会) / 矢富明德(佐賀県国際交流協会)

オンラインのみ





## 協力

日本生活協同組合連合会  
一般社団法人多文化社会専門職機構(TaSSK)  
認定特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)  
社会福祉法人東京都社会福祉協議会東京ボランティア・市民活動センター  
社会福祉法人大阪ボランティア協会

## 後援

社会福祉法人全国社会福祉協議会 / 社会福祉法人中央共同募金会 / 認定特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会  
認定特定非営利活動法人日本NPOセンター / 公益財団法人日本YMCA同盟 / 特定非営利活動法人日本病院ボランティア協会  
一般社団法人日本協同組合連携機構(JCA) / 一般財団法人自治体国際化協会(CLAIR)  
特定非営利活動法人国際協力NGOセンター / 一般社団法人環境パートナーシップ会議 / ESD活動支援センター  
一般財団法人児童健全育成推進財団



認定特定非営利活動法人

日本ボランティアコーディネーター協会

Japan Volunteer COORDINATORS Association

参加の力を信じよう！～市民が主役の豊かで創造的な社会をつくる

市民が主体的に問題解決に取り組む社会を実現するために、一人ひとりの社会参加意識を高め、積極的に行動することを応援する専門スタッフとして「ボランティアコーディネーター」の存在はきわめて重要です。しかし、十分に社会的認知を得ていないことから、多様な分野で活動するボランティアコーディネーターの専門性の向上と社会的認知を進め、専門職としての確立を図ることを目的に、2001年1月に設立(同年8月にNPO法人化)いたしました。

### JVCAの事業・活動の5つの柱

- 1 ボランティアの魅力と可能性を伝える
- 2 ボランティアコーディネーションの機能を普及させる
- 3 ボランティアコーディネーターのネットワークの確立
- 4 ボランティアコーディネーターの専門性の向上
- 5 ボランティアコーディネーターの社会的認知の促進

### 取り組んでいる事業

#### 1 情報の収集と提供活動

- ① ニュースレターの発行
- ② メールマガジンの発信
- ③ ブックレット・書籍の発行
- ④ ホームページ・facebookの運営
- ⑤ 文献・データの情報収集



#### 2 全国研究集会の開催

- ① ボランティアコーディネーターたちが一堂に会する <全国ボランティアコーディネーター研究集会(JVCC)>の開催



#### 3 検定システムの実施

- ① ボランティアコーディネーション力1・2・3級検定試験・直前研修の実施
- ② 1・2級合格者のつどい
- ③ 1・2級合格者対象研究会

#### 4 研修・セミナーの開催

- ① ボランティアコーディネーター初任者向け研修の開催
- ② ボランティアコーディネーター実務者向け基礎・応用研修の開催
- ③ 研修講師の派遣

#### 5 調査・研究活動

- ① JVCA会員・検定合格者のニーズ調査の実施
- ② グッドプラクティス事例の収集および認定
- ③ ボランティアコーディネーションに関する実務研修体系についての研究

#### 6 ネットワークの推進

- ① 会員メーリングリストの運営
- ② CoCoサロンの開催支援
- ③ ボランティアコーディネーター基本指針の配布・普及
- ④ 国内外の関係団体との連携、協働

事務局 認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会  
〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2-13 末よしビル別館 30D  
TEL03-5225-1545 FAX03-5225-1563  
E-mail:jvca@jvca2001.org URL:https://www.jvca2001.org /